

I. 事業の概要

平成31年は4月30日に幕を閉じ、5月1日に新天皇が即位され「令和元年」が始まりました。

9月には日本で初めてラグビーワールドカップが開催され、世界中からラグビーファンが訪れ、復興五輪として最高の盛り上がりとなりました。また、政府は10月に予定通り消費税を10%（軽減税率8%）に改定し、生活支援や景気対策の措置を実施しました。

一方、景気動向は、中国から発症した新型コロナウイルスの感染拡大を早期に収束すべく「緊急事態宣言」を発令したが、想定外のパンデミック（世界的大流行）による自粛要請のため、世界中の経済が停滞している状況下にあります。

このような状況の中、九州大学病院の医学の研究を奨励助成し、患者の支援と職員・学生の学事研修等に便宜を図りながら、各種事業の運営に努めてまいりました。

収支については、患者支援等の実施事業では約3,540万円の公益目的支出を行い、ほぼ当初計画に沿った運営を行うことができました。

その他事業については、予算収入を喫茶・販売・コンビニ事業は利用客数減少のため下回り、薬局は処方箋枚数の微減を調剤報酬額で補い予算収入は微増となりました。支出については各事業の雇用体制の見直しや経費削減に取り組みましたが、人件費及びWW棟売店と薬局の仕入負担増と消費税改定に伴うWW棟売店のPOSレジの更新により、当期の一般正味財産は約1,792万円減少しました。

II. 事業の内容

事業については、移行時に策定した公益目的支出計画に沿って、奨励助成事業や患者の支援事業を確実に実施しました。また、その他の事業においても、平成31年度事業計画に基づいて活動を行いました。

(実施事業)

1) 医学研究及び学事研修に関する助成事業(特定寄附)

- ・ 学術研究及び医学研究の助成
- ・ 病院運営の助成
- ・ 臨床看護研修の助成

2) 地域医療の発展及び振興の助成事業

- ・ 医学雑誌発行の助成

3) 患者の慰安に関する支援事業

- ・ 精神科・神経科病棟行事の支援
- ・ 小児科病棟行事の支援
- ・ クリスマスツリー・イルミネーション飾り等の支援
- ・ ボランティア活動への支援
- ・ 入院患者及び家族への宿泊施設の提供

(その他の事業)

1) 院内療養施設等の環境の整備事業

- ・ 外来棟及び各階ディールームの観葉植物設置・管理
- ・ ハートセンター庭園の管理運営
- ・ 雛飾り設置の支援
- ・ 外来患者服用飲料水の提供

2) 医療従事者への福利厚生事業

- ・ グラウンドラウンドの協賛及び助成
- ・ 同窓会評議員会及び卒業生入会歓迎会の助成
- ・ 看護師等教職員向けマンションの貸付

3) 入院療養に必要な諸施設等の提供事業

- ・ 付添寝具の貸出、病衣の配備
- ・ 入院患者療養設備（テレビ・冷蔵庫・床頭台）の保守管理

4) 必需品の販売・貸付・役務の提供事業

- ・ ファミリーマート九大病院店、ウエストウイング棟売店の運営
- ・ 宅急便・電報の取次ぎ及び公衆電話・自動販売機の管理運営
- ・ コピー・ファクシミリサービス
- ・ 喫茶「ねむの木」の運営

5) 保険薬局事業

- ・ 恵愛団薬局、森の家薬局の運営